

# 警察のイメージ向上における有効手段

橋本 知幸

## 要 旨

警察組織（警視庁）に対して一般の人々が持つイメージが悪いのではないかという意識から研究を行った。そして、この研究で警察組織（警視庁）のイメージを向上させる手段を見つけることが本研究の目的である。では、なぜ一般の人々が警察という組織に対してイメージが悪いのかという疑問がある。これは、様々な要因があげられるが、警察組織の情報はマスコミを通じて一般の人々に伝わる。そのため、私は一部の警察官の不祥事などがクローズアップされて一般の人々に伝わってしまい、イメージが悪化してしまっているのではないかと考えた。そうした状況で、どのような手段を講じることで警察組織のイメージを向上させることができるのか。私は、この研究で警察の実績や功績、すなわち警察官ひとり、ひとりの社会への貢献度が一般の人々に正確に伝わっていないと感じ、この点を改善することが警察組織のイメージを向上させる一つの要因として挙げられるのではないかと考えた。しかし、警察官が行う主な職務は犯罪と直結していることもあり、全ての情報を公開することは現実的に不可能である。しかし、警察官の職務は犯罪と関わるものが全てではなく、人命救助や困っている人々に対しての協力といった種類のものもある。私は、この研究で人命救助や困っている人々への警察官の協力など、警察官の社会への貢献度をマスコミを通して一般の人々へ伝えることができれば、イメージの向上に繋がるのではないかと考えた。しかし、そのような情報がこれまでなぜ伝わらなかったのだろうか。私は、この研究でいくつかの仮説を用いてインタビューを行った。仮説は以下の通り。

- (1) 警察組織が閉鎖的な組織であるため
- (2) 「隠匿の美」という日本人の価値観が影響しているため
- (3) 第三者による情報漏洩があるため
- (4) 一般の人が持つイメージを意識していないため

これらの仮説を現役の警察官に対して問いかけることで、警察組織の情報伝達の問題点を挙げる。また、現場で働く警察官が一般の人々のイメージが悪いことで協力が得られなかった体験談や一般の人々の協力がどの程度、警察官の職務に必要なものであるのかといった点についても確認する。そして、挙げた問題点を改善することが可能であるのか。その問題点を考慮した上で、警察官の社会への貢献度をマスコミを通して一般の人々に伝えられる手段を提案する。